
デスレス
DEATHLESS
六道婁士
Rikudou Koushi
LEVEL 5
YOUNG KING COMICS


ズ
ズズ
オオン…
ああ……
なるほど単純なことなのです


「天土(アメツチ)の繭(マヨ)」
「繭(マヨ)」の胎内(なか)にいるなら


それは
「蛹(サナギ)」なのです
第67話 飢えたひとたち


やつらは――
奴儕は
すべて
この時
この勝利の光景に
辿り着くために


ギァァ
ギッ
ズシッ
おっとっと
ヨロ‥
トッ
ト‥


とと
よいしょ
こんなことなら武蔵にちゃんと習っとくんだったよ
吾も慣らし中だ お互い様だの
数百年行住坐臥 人間の作法に 倣うてきたのでな


ググ
懐かしすぎて
グリ
ちと照れる
ワイルド系嫌いじゃないよ
ギュル
いい眺めだし
は！最低だの
ギュルル…


ほいっと



アッ
僕こういう荒事はからっきしなんだけど
便利だねこれ



痴女の化け物と剣で戦えるなんて男の人生冥利に尽きるねぇ
だっ…誰が痴女か！
だいたいなにが冥利だ
お互い冥途の御利益があるような善行を積んだ覚えはなかろう
まーねー
爆死するような事1万回ぐらいやってきたしね
今だって足止めのために君を殺せるしー
いかんな…落ち着かねば
これでは完全に延寿殿のペースだ


足掻くと
決めたからには
勝つための方策を
探らねば
目的はここを出て
教祖を追うこと
だが延寿殿が
存外に強力だ
よもや
ムサシ殿もミカサ殿も
能力のみ奪われて
おるとはな
そんなことが
可能だとは…
♪
♪
おや
タン
延寿殿は障害に
過ぎぬ
斃されるわけにはゆかぬが
延寿殿を斃す必要が
あるわけではない


ふむ…
ほとんど見えぬ程薄いが存在はしておる
時は持っておるが…
残り香程度の遺思が残っておるだけ…
ミズキ殿への憎しみも
地下の繭への恨みも
よってたかって一人前ということか

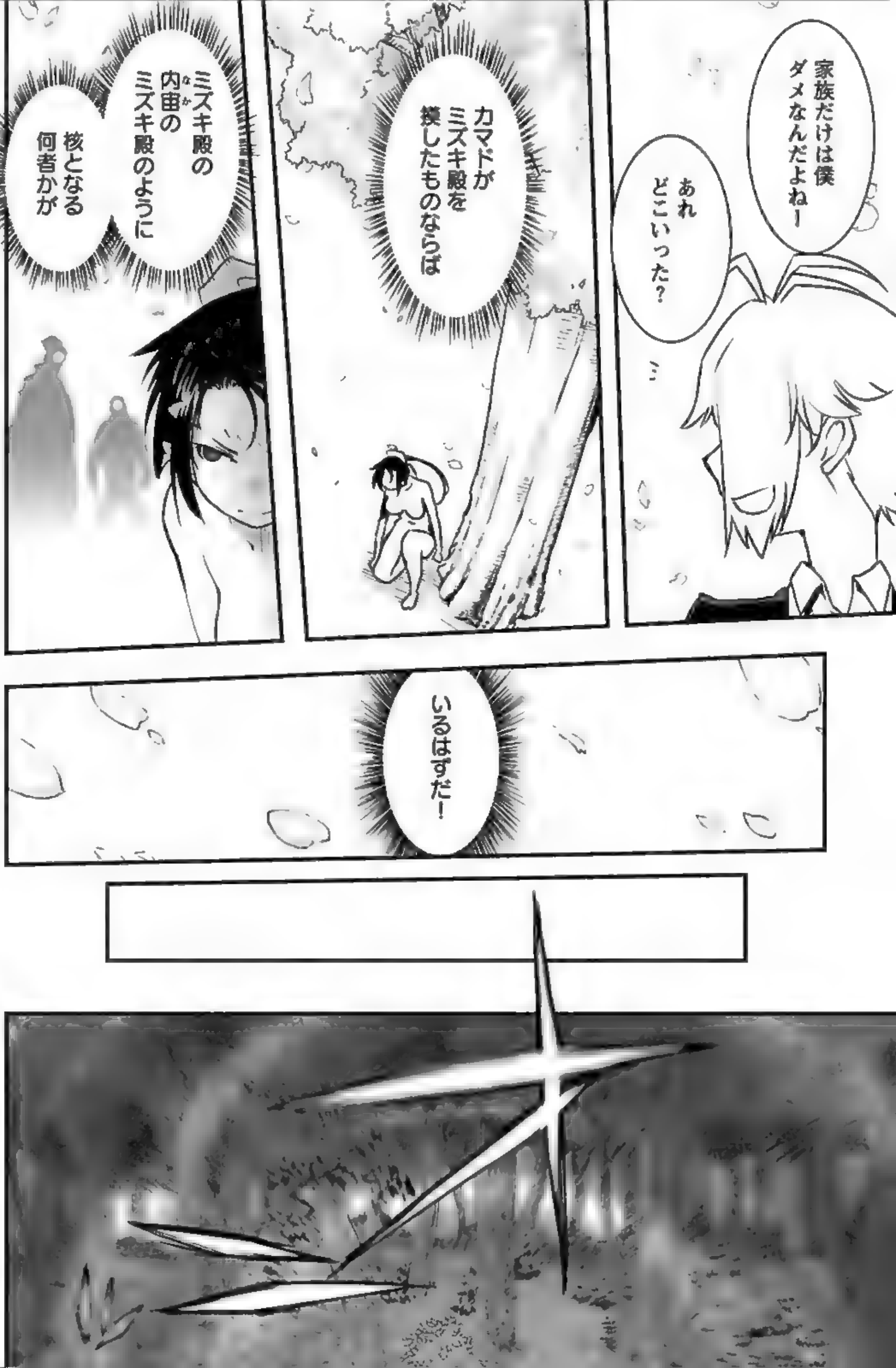

薄くとも
こころが
残っておるせいで
延寿殿に誑かされる
羽目になるとは
こやつらも
浮かばれぬ
延寿殿か…
なに
追いかけっこ？
そーゆープレイ
嫌いじゃ無いよ
そうだ
延寿殿の目論見を
考えるのだ
延寿殿の言を
信じるなら——
カマドは
ムサシ殿らや
結界を越えるための
露払いとして
利用されたのだ
だが思うたよりも
吾らが
不甲斐ないせいで
露払いどころか
本丸が落ちそうに
なった


おかげでカマド自体の足止めをするために延寿殿がカマドに喰われる羽目になった
ほんとうにそうしなければカマドの足止めをできなかったのか?
なにかあるのではないか
カマドに喰われた吾を其の儘におけなんだなにかが…


一番弱い心を封じたのさ
封じた…と言ったか
あれが…
鍵なのやもしれぬ
すばしっこいなぁ
まあ逃げ回ってくれるんなら足止めする側としては願っても無いことなんだけど…
ついついミズキと同じみたいに感じちゃうけど
スザクさんは考えもなしに逃げ回らないよねー


未来予測と剣圧とは相性のいい能力だ
延寿殿が素人でなければ無事ではおれぬ
立ち会いの果てに旅を終えるのも悪くないと考えた頃もあったが…
このような事故同然の剣撃で逝くのは御免だの


ここはなにもかも薄い
ミズキ殿の内宙の…
あの押し詰まったかんじとは違う
だがそうか…ここは人数の増えたミズキ殿の内宙と思えばよいのか
そういえば1人や2人増えただけでもミズキ殿は正気を失っておった……
この人数を内に抱えては…カマドが ちとアレだったのも頷けるの
ズズズ…
やれやれ蚊トンボめんどくさいなー
こっちをやっちゃえばカタがつくのかもしれないけど…


家族だけは僕ダメなんだよねー
あれどこいった？
カマドがミズキ殿を模したものならば
ミズキ殿の内宙のミズキ殿のように
核となる何者かが
いるはずだ！


おわ！
！
なんじゃ
今のは！
自然現象じゃ
ないさ
なんなんだ
今のは！
きっ
きもちが悪い！
いっ
た
たッ


いったいなもー
…なにか封印に影響が出てるや
ズドド
羅睺の番衆の影響が薄れてるのかな
ズキーン。。。
がんばってるね まいはにー♪
僕らの祈りのために


なんだ？
今のは
間近で
なにか大きなものが
身じろぎしたような…
鴉取！
新麻呂！
何処なり！


キョロ
キョロ
ハッ
カマド？
誰(たれ)ぞ…


今の…
こまかいのは…
朧気なくせに
明瞭な
もしや…
カマド自身
ではないのか？
ぐっ
延寿殿か⁉


フクウ!?
貴様！


見あたらぬと
思えばしっかり
喰われておったのか
ええい
ゴゴゴ
見事に
誑かされとる
延寿殿も
つくづく
獣だの


さっきのやつがカマド自身だとすれば…
封印が揺らいでおるということか……


ここも
どーなってんだか
僕って
タマシイみたいな
もんなのかな
広さは
ウチの森
くらいかな?
ミカサが言ってた
ミズキの中とは
違うカンジなんだよね
あ
おつかれー
………
僕
思うんだけどさ


スザク君って弱くない？
やかましい！
数百年ひとのふりをしておればなまりもするわ！
そお？


思うんだけど
スザクさんってなんか最初から化け物度足りないよね？
ひどい駄目出しをされておる気がする…
なんていうかな…カマドさんやフクみたいな
話の通じない感が薄いというか
ぬ
坊主に説得されただけで人喰うのやめるとかどんだけゆるいニッポン昔話だか
ほっとけ！
殺すならば殺せ
旅の果ては恐れぬ
吾に大事なのは辿りし旅路のみ
まあそんなにピリピリしないでさ


楽しく生きようよ
!
やっぱ大人しくしてもらうにはこっちのほうがいいかな
まさか…
♪フン
フン♪
やめぬか延寿殿


君は・・・もう・・・ミズキじゃ・・・ないしね
君らみたいなものにも僕の目はキくみたいだよ
正直ぜーんぜん僕の好みじゃないけどさ
やっぱ僕 平和主義者なんだよね
腹が立つうえにおぞましいわ！
大丈夫痛くない
く…！
瞼が閉じぬ！
これが…
王の目――



酒落臭いわ！
オンオンオンおーン
吾もぬしなど
まったく
好みではない！
あれぇ？
わーここって
鼻血もでるんだ
こまかいなー
…じゃなくて
エラッ
フンッ


えっと……
ズキズキ
スザク君って なにものだっけ？
ばけものだが？
ハハハ
だよねー
・・・ひだるい・・・
ズズズズ！
饑い・・・
封印ゆるんでるな〜 あれ・・・？
待て！



第67話／完


完全
宮森

デスレス

DEATHLESS

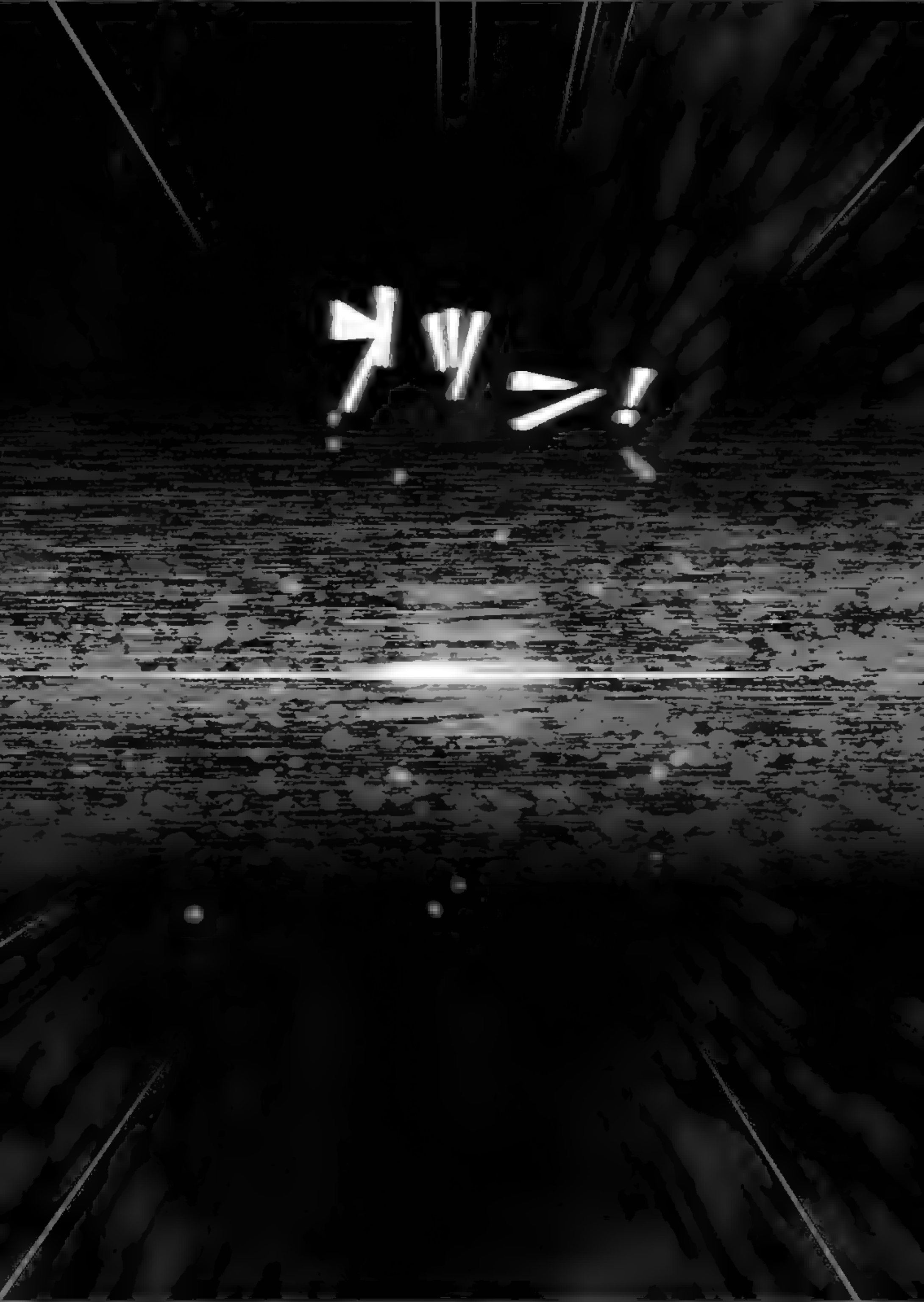

第68話 くりかえすひとびと
ひだるい…
饑い…


空腹(ひだるい)・・・


ゴオォ
ズ
延寿殿！なにをした！
いや僕もちょっと混乱中ー
ズ
今のは…
ミズキ殿が…喰われた!?
吾も死ぬのか!?
ズ
ズ


ズ


死・・


カッン!




――は・・・
どうなって…おる？…
!
鴉取！
新麻呂！
何処なり！
このありさまには覚えがある！…
幻影か？…


先程までのことはどうなった?…
吾はどうなったのだ!…
フクウ…
なぜ同じことが起こっておる


僕
思うんだけどさ
スザク君って弱くない？
……


あれ？ぐうの音も出ない？
ま…この有様だしね
言っちゃなんだけど
スザクさんってなんか最初から化け物度足りないよね？
…吾は話が通じるからの
まったくだ
坊主の説教で化け物が人食いを改めておったら此の世に鬼などおるまいの
…もしかして心読む能力とか持ってた？
まどうでもいいけど
キュ
わかったからって対処できるものじゃないしね
何者のしわざだ…
あるいは先程までが幻でこれが現実なのか？


まったくおなじではないが…
ほとんど同じ言葉と出来事――
しかし吾ながらまったく同じ危機におちておるのは業腹やら情けないやら
やっぱ大人しくしてもらうにはこっちのほうがいいかな
君はもうミズキじゃないしね
あれ？観念した？
延寿殿
ミズキ殿は大丈夫か
いやいや僕もさすがに家族には
無事かと聞いておる
ギア…


なんでそんなこと聞――
ひだるい…
やっぱり封印がゆるんで…
やっぱり？…。
これも同じだ
そして…
また…―


またこの目眩(めまい)だ！


鶏取！
新麻呂！
何処な…
空腹…
やかましい


・・ぬしはなにものだ！
ひ…
そしていったいなにが起こっておる？
これはぬしが関わっておるのであろう!?
ひ…
空腹(ひだるい)…
ええい口を開けば腹がへった腹がへったと！ぬしはカマドか！
カ…
……やはりカマドなのか？
パリ
パリ


ぬしがカマド・・・そのものならさっさと吾をここから出せ！
吾は忌々しいたくらみを止めにゆかねばならぬのだ！
空腹(ひだるい)・・・
ならば喰え！
痛いのは苦手だが已(や)むを得ぬ
腕の一本くらいくれてやる！
喰え！
…喰いたくなし…
どういう意味だ


ポトトッ
ポト
もはや…喰いたくなし…
ヒクッ
空腹…
喰いたくなし…
どうしたいのだ…
ウ…
ヒック
ヒック
吾ながらぬしの事をなにも知らぬ
長い付き合いのうち昔語りのひとつもしておれば…


……あさまし……


くっ…
フクウか
うわちゃー
封印
ゆるんでるなー
そして
延寿殿…


ザァ
・・・・
なんだこれは・・・
やれやれー
この状況は・・・
似ているが
まったく違う・・・
流れが違うが
結論だけが近い・・・
そして
また戻るのか？


ホエ
ホエ
ホエ
延寿殿！
ミズキ殿をなんとかしろ！
喰われるぞ・・・・・
おっとっと
延寿殿…
くぅ…
あれは…カマドか？
中心核になってる存在だね


そんで この内宙で 一番弱い心さ
ハへ 弱いものか! いきなり 食いつかれたわ!
・・・そういう夜叉を 作ろうとした らしいからね
ミズキ殿と おなじものを 作ろうとしたという あれか…
確かに ミズキ殿も 暴走しがちで あったが…
…延寿殿…
もしこやつが 吾や このミズキ殿を 喰ったら どうなる
そりゃまー 不完全なもの 同士でも 2人分あわせたら へたすると 完成しちゃうね
ズズズ
ミチッ
ミズキと おなじものが…


羅睺が完成する…
あれが…？
だがここは既にカマドの腹の中なのであろ？
吾らは既に喰われておるのではないのか？
僕は封印に守られてるから自我を失わずに済んでる
喰われたけど消化されてないみたいな？
そんでこの中のひとたち全員洗脳したのさ
内側から乗っ取ったというわけか
僕としてはスザク君がフツーにしてるほうが不思議だね
ねえスザク君ってなにもの？
吾は——



此度(こたび)は戻らぬか…
ここから先は知らぬ！
…ばけものだ
で？どうするつもりだ
僕の目でどうにかなればいいんだけど近寄るの怖いな〜
多分カマド君起きちゃってるし急がないと
？


ゾワァァ…
なんなんだ…今のは！
きっ気持ちが悪い！
ブルル…
ピク…
ズズズズ…



おお…
すごいぜ
時間が揺れてやがる
どういう表現だ！
刺青の旦那
話の続きを聞かせてくれないかい
…続きってほどでもねぇ
ここへ来てさっぱり勘が働かねぇってだけさ
儂にゃあ運のいい目を読む勘働きがあった
おかげでコイツやその前の宿主にいい目を見せてこれたんだぜ
唯一ひでぇ目にあうのは乗り換えの時だけさ
なんですその化け物を見るような目は
あなた方と違って私自身は普通の人間ですよ


だいたいそう簡単に死には……
……ん？



[redacted]

[redacted]





時の合揃い…
ギチ
人の合揃い…
ギチ
地の合揃う
ギチ
羅睺に悠久の死を
第68話/完

入

墨



デスレス
DEATHLESS


ズ
ズ
ズ…
トフ…


じゃ…
ま
もの


ペタ
ペタ


第69話　さだめきころすひとびと


ぐわぁらごわがきーん！


ズ
よっと
ほっ
剣の振り方じゃないなこれ
悪いけどもちっと消えててくれるかー
なっと!
ゴオオオ
さて…


しかたないな
どーせ
ほっといても
脅威になったたん
だろーし
なっと
めき…


ずしん。
喰っておる…
喰われちゃ効かないか…
まいったな
どうなっておるのだ延寿殿
いやなにね
ははは―
カマド君の封印が解けちゃって
封印というのがそもそも…まあよい
封印が解けたならカマドが元通り正気に戻るのではないのか？
半分正解
半分？



元のカマド君が正気だったわけないじゃん
む…道理だの
で正解の半分とは？
正気に戻ろうとしてるってのはあってるかも
？
封印といっしょに刷り込んだ「憎悪」はもう封印といっしょに解けたハズなんだけどなぁ
やっぱ復讐かなあ
さっき何か食べたみたいだしもう動き出してるっぽいし
まだ早いんだよねー


もう少し
足止めしないと
キキキキン




追いつかれちゃう


さすがにキレてるのかな？意外だね
一応ボクも足止めまかされた手前焦っちゃうなー
嫌われちゃう
なんだもう尻に敷かれておるのか
スザク君もも少し頑張ってくれると思ったのに一方的にやられちゃうし
ボクがここに残ったのは君らが存外不甲斐なかったからだよ
不甲斐なくて悪かったの
言ったでしょ
僕らは喰われたけど消化されてない
でも完全にスザク君とミズキが喰われちゃうと——


こっちより先に完成されちゃ…
どうなるのだ？
吾らがそろって情けなく頭から囓られ
カマドが羅睺として完成するとどうなる
……
…僕なりに
「羅睺の番衆」の情報をまとめたけどね
言え！
あくまで僕に理解できたイメージの意訳だよ？
ここの地下にあるのは「羅睺」のからだなんだ
からだ…？
そう


意識とか精神とか…
首から上がすっぽり
抜けた
いれものというか
エンジンというか…
胴体だけ
ならば…
うん
ミズキは
頭だ


他者を喰って己のものにする存在(ありかた)…
それは本来たったひとつの躰(からだ)を喰うためだけの能力だ
僕らがやってるのはここの地下に眠る「羅睺の躰」の争奪戦なんだよ


からだを…
そうか…教祖は「羅睺の躰」を乗っ取るつもりか
そゆことー
夜叉とは違うやりかただけどね
あの子は「羅睺の躰」を乗っ取ることができる
ただ今そのための時間稼ぎ中でね
成る程の
だが先程から肝心の答えがない
「羅睺の躰」が目覚めるとどうなるのだ
どうにもなんないよ
僕は「羅睺の躰」ってのは「強力な兵器」なんだと解釈してる
だから…


手に入れた者が
どう使うかって
ことだと思う
そうなのか…？
あれは…
カマドが「羅睺の首」たりえた瞬間ではなかったのか
延寿殿…
ミズキ殿があのカマドに喰われたのを見なんだか？
ポイッ
……そうならないように抑えないといけないんだよね
フクウ君！
ドガンッ
もう話してるヒマは無いけど
こちらの乗っ取りが終わるまでスザク君も喰われないでね


吾しか
見ておらぬ
吾しか知らぬ
吾だけの
まぼろし…
本当に
まぼろしか
なかったこと
なのか


もうすぐお別れなのですね
せいせいするのです


延寿様は秋葉ががっちりお慰めするので心配はイラナイのです！
どうぞ心置きなく
…おかしな人間じゃ
ま
憑坐のあるもの…
巫者というのはそういうものが多い
幽霊に変人呼ばわりされるいわれはないのです
幽かな霊か…
うまいことを言う男の子じゃ


借り物の躰
もはや何時から憑坐の躰を転々としてきたのかも忘れてしまった
終わらぬ精神
幽れもする
羅睺・・・
永遠の精神に見合う永劫の生身
確かにかつての妾がこれを見つけたなら必ず手に入れようとしたはずじゃ


我らはひとでないものの総代
この地に眠る「羅睺の番衆」
羅睺は千年の後に浮上する
繭に守られている
使える駒はある
憑依せよ
羅睺に憑依せよ
羅睺となれ


そして消滅せよ
羅睺を滅せるのは
羅睺のみ
羅睺の消滅を
「涅槃(完全なる死)」を
かつての…
妾(わらわ)の知らぬ
妾(わらわ)なら…

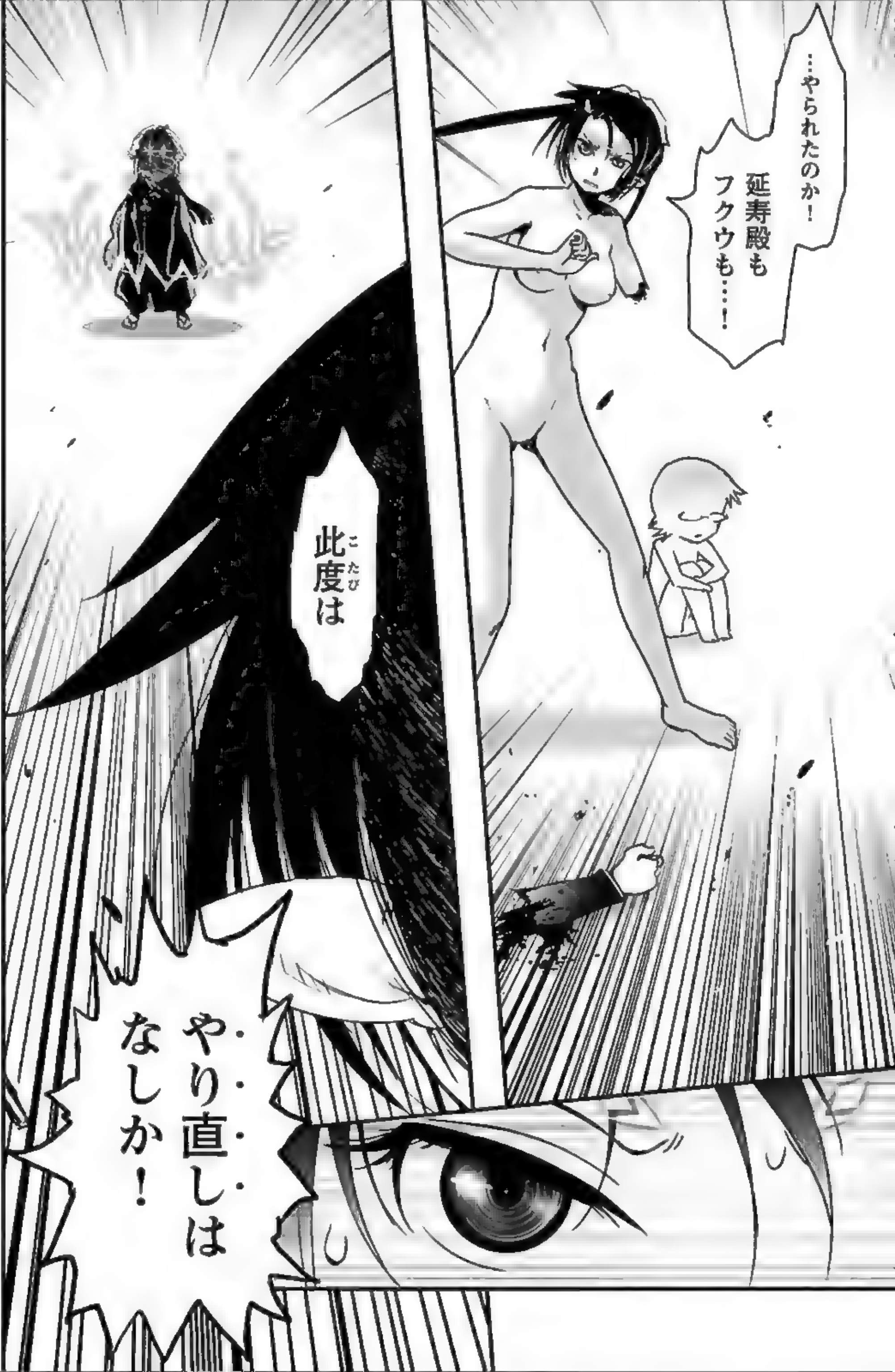

ぬう…
とかく半身では
どうにも
動きづらい
少しでも
時を喰わねば
ズル
そこらに
カマドの中の
ザコがおらんか
薄口だが
贅沢は言って
おれん
いた!
ジュ


貴様…
旦月(たんげつ)!?
いつの間に喰われたのだ
私は…
私はなぜここにいるんです
知るか
すっかりじじい姿が馴染みおって一瞬誰だかわからなんだ
わたしはなぜ
なんで私は
私の意思ではないような気がするんですよ
ねえ
人には珍しくも無い繰り言だが…
確かに
吾らは何かの運命に転がされておる気がするの


またの機会あらば
ぬしも抗え
全身には足りぬか…
うすい…


!?
今のは？……


もう少し…
足止めして
ほしかったのう



第69話／完


影の法師

デスレス
DEATHLESS


汝(なれ)がここにいるということは
延寿(あれ)は滅したのか
延寿殿が喰われただと…?
なんと!…


思いのほか
だらしがない
第70話 色に生きるひと


ユラ
…ちッ
ちょっと、待つのです！
ギュルルル


延寿様がお亡くなりになった？……
ヨマイゴトは死んで言えなのです！
そんなことあるわけないのです！
ことが終わった暁には禁断と悦楽の愛人ライフが待っているハズなのです！
でなければこんな命懸けの……
あれ？秋葉の命がやばいのではないのですか？
死ぬのは気持ち良くないのでいやなのです！
つくづく面白い男の娘じゃのう



あの大概な男がそばに置いておったわけじゃ
お友達から始めよう！
君に惚れたいんだ子ヘビちゃん♪
とりあえず抱かせてくんない？
あ
監禁プレイ！
宮森延寿…
…いろいろと通報ものの科白じゃな


大概の時代でも
身勝手のうえ
最低にすぎる
口説き文句じゃ
どうでもよい
苟且(かりそめ)の躰(からだ)ですら
差し出すのが
哀れになるぞ
いやごめんね
いきなり
君って僕の
初・め・てのひと・
だからさ
しまいには
一方的な
凌辱宣言か？
あー言い方が
悪かったかな♪
つまり君は
僕が信用できない
初めてのひと
だってことなんだ！
……


君にそんな気の毒そうな目をさせたのって僕くらいじゃない？
君の初物ゲットだぜ
…確かに初めてじゃ
…人とのかたらいで不気味さを感じるとは
妾とて詳しくはないが…
人の世には口説くに向いた艶で婀娜な文言など売るほどあるのではないのか？
それともそれは汝独特の口説き文句なのか？
…さすれば大概じゃのう
うん 我ながらたいがいダメダメなんだ
なにせ
他人を口説くなんて初めての経験でね


なるほど
考えてみれば
妾も…
この身の正体を
知ったものに
口説かれるのは
初めてじゃ
多少興味が
わからぬことも
ない
続きを許す
やったぁ♪
まずぶっちゃけ
君がいい理由はね
君に僕の目が
効かなかった
からさ
…ふむ？
ようは
敗北宣言か？
ん？
あーうん
負けでいいや
君みたいな
実体のない
こころだけの
存在には僕の
目は効かない
みたいなんだよね
汝の目は…妾と
同じようなものか？
僕のは
のりうつってる
わけじゃない
相手が思い通りに
なるだけ
これがまた
半自動なもんだから
めんどーでね
今くらいの
年齢の頃なんて
ウチの結界から
一歩外に
出よーもんなら
♪


そんな気なくても周りの人間は僕の言いなりの人形だったさ
「王の目」とか呼んでるヤツもいたね
うまいこと言うなぁ
心底思い通りになる相手なんて
一切・・・・・・疑うに足りないものなんて
それはもう僕の一部とかわらないんだ
そういう意味で結界の外に僕にとっての「他人」なんかいなかった
そして結界の内側にいるのは「家族」だけ


他人なんて
どこにもいなかった
君は
僕にとって信用できない初めての「他人」なんだ
それだけでドキドキするね
妾は「ひと」ではないのじゃがな
細かいことさ
死体だって惚れさせちゃえるオトコだよ ボク


それで どうするのじゃ
とりあえず 君の気を ひいてみようと 思う
君の目的に 協力する
全面的に
汝の家族を 敵にまわすぞ？
ピカ
うん みんな わかってくれると 思う
……さすがにそれには 首肯しかねる
え？ 身内は 口説けないけど 殺すのは カンタンだよ？
いや 首肯しかねると 言ったのは そちらではなく…
妾は汝をどう 信用すればよい？
バンバン 疑ってくれて かまわないよ
バム
そういう 駆け引きも 初めてで ゾクゾクするね
いや青春って イイネ！
いい夢物語に なりそうだ


そうか…
たいがいな男じゃったが…
逝ったか
妾と違う妾を知っておるか
別な君?
時のもつれた果てに
あの「番衆」に会わなかった妾がいたという
ああ…


知ってるよ
妾とは
違ったか
違わないけど
君の方が可愛い
驚いた
妾はあの軽口を惜しんでおるのか



惚気話の気配がするのです！
ドンッ
この大ピンチをどうにかするのですこの色ぼけの幽霊野郎
はぁ!?
惚気か
そうか…これは惚気のようなものか
信用などせぬ
あの男も望むまい
じゃが…
ガクg


あのたいがいな軽口には
はえ？
期待したぞ


延寿殿！



はぁ
あは
はばははは！


……っ！
やはり あっという間に…
らしくない 無茶を…



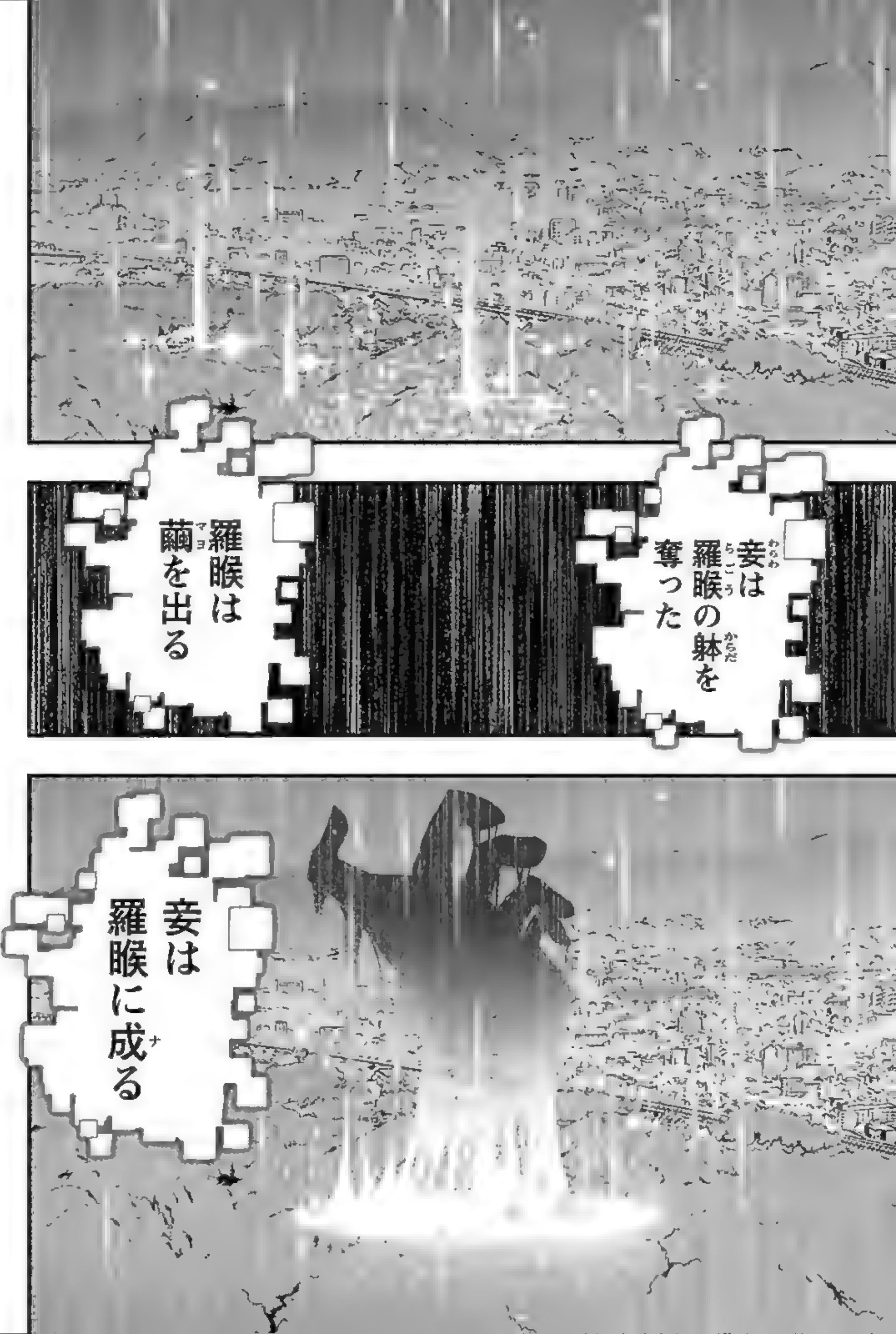
ゆらり
なんかまた立ち直ったのです！
命のピンチ！
略してイノピンなのです！
ヒィ
なんか前よりコワい…
なんとかするのですエロ亡霊！
え？……
その…
誇るがよい
わずかな時間を…
面白き男の娘よ
あ…


汝の愛人はことを果たした
さらばじゃ
は…
ちょ…待ッ……!
よさそうなこと言い逃げしようったってダメなのですこの泥棒亡霊!
イノピン!






やはり末期は酒より茶じゃの
まったくだね
始まったか
いつかどこか…
ミズキが普通に暮らせるところがあるといいんだがね


妾は羅睺の躰を奪った
羅睺は繭を出る
妾は羅睺に成る


そして羅睺は死ぬ
涅槃（完全な死）を得る
奴僧（やつばら）の目的通りに
満足か
妾は——


ドチャ…
ズル…
そうか…
なにか…起こっておるのだな…


延寿殿の時間稼ぎは成功したというわけだ…
フクウも…誑かされた挙げ句になんという様か…
ズル
ズル
ズル
武蔵殿が見たら泣くぞ
……?
!
ゴロ…


まさか…!


延寿殿の…
目玉!?…
延寿殿…
まさか自分で?
どういう
つもりだ…
カマドに
喰わせるよりは
マシかも
しれんが…!
罠か?
なにかの
悪ふざけか?
ええい!
どちらも
ありそうだ!
だいいち
延寿殿の目など
吾にはどうにも
ならぬ!
吾に
喰えるのは
時だけ…


違うね
!?…
第70話/完
喰えるさ
ドクン
なんだってな


実済智

デスレス

DEATHLESS


喰えるさ
なんだってな
刺青の!……
何故ぬしがここにおる!
日月を喰ったろうよ
儂ぁ宿主を殺した相手に移動するんだぜ？


そして
わかったのさ
これが儂の
旅だったんだって
ことがよ
第71話 たどりつくひとたち


旅…!?
刺青が…移動しておる!
旦月を殺した吾をどうする…
…?
ああ誤解すんな
ありゃあただの宿主で人間で
くずで人殺しだった
儂の宿主はすべてそういうものだった
惜しくないヤツを選んだってぇのも非道い言い訳だが…
なるほどの…
刺青の宿主になるには1人は殺さねばならんのだな


では貴様はなんなのだ
吾がなんでも喰えるとはどういうことだ
最初からズレてやがったのさ
最…初？
最初に儂に会った時嬢ちゃんかおめぇが宿主を殺してりゃよかったんだ
無茶を言うな
吾らは殺人鬼かなにかか
やれやれ…地金が出てるぜぇ？
そうならざるを得ないような外道を選んだつもりだったけどよ


ちょっとずつズレたのさ
運命ってやつが
吾を…どうするつもりだ
どうもできやしねぇよ
儂の旅がここで終わるだけだ


吾がなにかなど
吾も知らぬ
ものごころ
つくころには
もう時を
喰らっておった
何者か
あんた何者だい
スザク君って
なにものだっけ？


最初に覚えておるのは
黎明の天空にかかる
果てなき藍青
ひとりある・・吾
孤独でいて不安はなく
両手には決意と確信を
ああ——


永き旅路が
始まるのだ


仕方の無い奴だの


延寿殿
いただくぞ



ん…？
ぴく…
喰らう際の痛みが…ない？
ま…よい
おい刺青の！
…？
もうおらぬのか…？
消えただと…



吾にひとつ思い出させるためだけの
それだけのものだったたか
…うむ
ミズキ殿はこういう気分だったのだな
六識の強奪
境界の蹂躙


これが


存在を喰らう
ということ




まったく…因果なつくりだの
カマドの起源が見える
延寿殿も最期までたいがいな男だ


心を明け渡す前に
自ら消滅を
選びおったくせに
見せたいものだけ
残して逝きおった
おかげでやっと
カマドが・・・わかる
喰いたくもないのに
腹が減るのは
辛かろう
美味いものを
喰ろうても
満たされる
ことはない
最初に
喰らうことを
拒んだのだから
満たされる
わけがない
ずっと一緒に
いたというのに
わかってやれなんだ
お前は


吾に喰ってほしかったのだな
カマド（おまえ）は過去をないことにしたかった
己が喰ろうたものたちと混ざり合ってしまえば


みなと均じく喰われたことになれば
みなと同じところに逝けると
眠るがよい
ひとを喰う悲しみで昏睡するのではなく
今度こそ腹満ちて眠れ


!
会うて200年
ゆくかゆかぬか…
勝手に
まとわりついてきて
ひとりで先に
終わりおって
やはり基本
ムカつくやつよ
っ——


おうっ
…っ！
だっ


……わかった
わかった…
あとで
母親も一緒に
喰ってやる
ふうっ



ミズキ殿の時ほど切羽詰まる感はないな
この懐の広さはカマドの性か
かさばるのはミカサ殿とムサシ殿のちからと…
む?
延寿殿の目にはまだ連中の封印が効いたままか
丁度よい
まだ性能に振り回されそうだしの
吾がなにものか…か……
これを喰うのは心の準備が必要だの
してさすがに外が気になる
ゆこうか




地の底だと!?
なにがあったのだ!?
とかく地上へでねば!……
来やれ 地の竜!
……ん?
なんだ?


イキウメ イヤー
おお 裏切り者が
まったく 無駄なものを 喰わせおって…
だが この 秋葉の記憶…
地下の繭が崩壊 したというのか
ム…
来やれ！
翼よ！








なんだ…これは
第71話/完


羅睺

デスレス
DEATHLESS


ひと…のかたちを
しておるのか？
まさか…




つまり
これ…が



ごう
睺


ら
羅
第72話 よみがえるらごう


・・・ほうほうと外界に出てきてみれば…
なんだこの手の付けようの無い有様は
手当たり次第に…
喰っておるのか？…


おい！
本当におらぬのか！刺青！
誰か・・・
・・・かたちを保っている者は・・・
……っ
吾にどうせよと言うのだ…


ギュルル……
ミカサ殿の「目」か…
ん…なにか…
ミカサ殿が伝えようとしておるのか…？
「喰っているのではない」？
「うか」…とはなんだ？
かけらのような意思しか伝わらぬ…
！


おお！
このっ！



果てなく実体が薄い！
空の雲に均しい！
どうにもなるか…こんなもの！
多少の時やら能力やら身に付けたところで手が出せぬ！
む


「ようやくわかった」？
「戻れ」？……
なんのことだ？……
ミカサ殿…！
「喰え」というのか
なぜだか…
存在ごと相手を喰らえるようになった吾が
ミズキ殿を取り込む？……
確かに手詰まりだ…
だがそれは…


獅子を追うのに
熊の檻を開くような
ものなのでは
ないのか？
刺青が…
もう…
なにがなにやら…


魔が出るか――
鬼が出るか――




ズ
ズリ
ズ…
ハァ…
ビクッ
え…
あ…
ほんとに…
そろった？…
わあ…


ひ…
ひさしぶり…


スザ…
く…
…は
は
度しがたい！
この顔を見て安堵とは…
…吾ながら…
ふえ…


ようかえった
ミズキ殿


うん…
た…ただいま
——して ミズキ殿
殿はいいよ…
今は… スザクのほうが 主だし
…それも わからん！
なぜ立場が… 主客が 入れ替わっておる…
もとに戻った わけでは ないのか…


ミズキ殿はどうなっておったのだ
ようは封印されておったようなものなのか?
うん…まあそんなもん…かな?
で…今っていつ?
何時もなにもあれから数日しか経っておらぬ…
だがまあなかなか濃い数日間での…
この有様だ
へ〜〜〜


うん…
そうなんだ…
いろいろ
あったんだろうな…
御免ね！
なぜ謝る
？
さて…まだ
聞きたい事は
山のようにあるが…
見ての通り
ちと派手なことに
なっておってな
そだね
……
ちょっと・・・
貸してね
…どうしよっかな…


うん…と
どれどれ…っと
ギュルル
ああ…うん
やっぱり教祖(あの子)を脳髄がわりにしたんだ…
ムチャさせてもほんの少し保てばいいんだし…
さてと
どっから手を付けようかな…
…………
化け物っぷりでミズキ殿に上をゆかれるのは複雑な思いだ…
このからだの事はむかし調べたんだよ
それでねスザク
むかし？
ここってね


ここって…
っていうか
この世界はね…
今はもう
羅睺
そのものなの
?
「ここ」…
とは？
んんとね
このへん
1万キロくらいの
範囲っていうか…
ちきゅー
まるごとが……
この内宙と
おなじなんだよ



羅睺はね
1000年以上も前に
宇宙の果てから
やってきて
ここに根付いたっていうか
溶けこんだっていうか――
待て待て
今話が壮絶に跳んだぞ
それは――
つまりあのカマドの内宙とおなじ――?
此の世ごと
喰らったというのか――!
それは…
ということは!
吾らも羅睺の一部ということか!?
理解はやー
そんでね


それが死のうとしてるの
すると…？
どうなる
死…？
ん～～～～
生き物とか時間とか多分ぜんぶ混ざっちゃってるし
最悪千年前に地球まるごと無くなってたことになったりするかも…
な…
あんまり興味ないけど…
やっぱマズいかな？…


なんだ…？
ミズキ殿は…止めたいのではないのか？
そうだね…
この…会話をしておるようで…
…やっぱスザクいや？…
なにも伝わっておらぬような
そう…
うん…そうだよね
確か友達とかいたし…
こやつは――
いや
これは――
ミズキ殿？…
本当に…ミズキ殿なのか？
なに？


まるで…
吾は
今ここで
おこって
おることを
止めたい
うん・・
そう・・・だね・


んと…あのへんにつっこむのが近そう
つっこむ?……
なにをしようというのだ
これは検索すための現象なんだよ
おおミカサ殿の能力とは…
いやそのことを聞いておるのではなく
勝手に!…
グイッ
カク
そしてこれは――
消去すための現象


さぁ
なんとかしよ
今ここで語っておるのに
まるで…


悠(はる)か遠くにいるような――
第72話/完


デスレス第十一巻
・製作
六道紳士
・作画補助
木林田 ウナム
たけぽんG
春夏秋冬 鈴
・担当編集
筆谷芳行
(順不同・敬称略)

少年画報社
http://shonengahosha.jp

電子書籍版

デスレス

11

六道神士

デスレス

DEATHLESS



六道神士

Rikudou Koushi

Suzaku managed the body of Mizuki backed to child's mind. They were eaten by Kamado who became their enemy. They got assaulted by Enju, one of Mizuki's grandparents. he had plundered clairvoyance from Mikasa who is one of them and samurai skill from Musashi who is also, he used them for attacking his granddaughter. Cause of his first true love, he wanted his love could attain her long-cherished wish. But the core of Kamad in her soul ward were getting uncertain bit by bit. Time did waver and the world did be blurred. Miyamotos resisted intensely the core for saving the world.

